新型コロナウイルス感染症と予防接種

接種前に必ずお読みください

新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、SARS-CoV-2 と呼ばれるコロナウイルスによって引き起こされる感染症です。感染している方の口や鼻から、せき、くしゃみ、会話などのときに排出される、ウイルスを含む飛沫又はエアロゾルと呼ばれる更に小さな水分を含んだ状態の粒子を吸い込むか、感染している人の目や鼻、口に直接的に接触することにより感染します。

主な症状として、のどの痛み、せき、鼻水・鼻づまり、倦怠感、発熱、筋肉痛など全身の症状が出ることが多いとされています。軽症の方は、発症後１週間以内に症状が軽快することが多いです。高齢者や基礎疾患のある方、一部の妊娠後期の方は重症化リスクが高くなります。

新型コロナウイルス感染症の予防

感染を予防するためには、外出時のマスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒、うがい、換気などの基本的な感染対策が有効です。自己だけでなく、周囲の方へ感染させないためにも予防を行いましょう。

新型コロナワクチンの予防接種の有効性

新型コロナワクチンには、国内外で実施された研究などにより、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院や死亡等の重症化を予防する重症化予防効果が認められたと報告されています。令和６年秋から定期接種化され、一般的には、65 歳以上の方は１シーズン１回の予防接種とされています。　【参考資料】長崎大学熱帯医学研究所 VERSUS Study

接種対象者

６５歳以上の方及び６０歳以上６５歳未満の方で心臓や腎臓、呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（ＨＩＶ）による免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方。

麻痺や認知症状などがあって同意書への署名や正確な意思の確認が難しい場合には、家族やかかりつけ医によって、慎重にご本人の接種意思の確認をし、接種適応を決定する必要があります。

予防接種を受ける前に

（１）一般的注意

予防接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことがあれば接種を受ける前に担当の医師や看護師、町保健師に確認しましょう。十分に納得できない場合は接種を受けないでください。

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。基本的には本人が責任をもって記入し、正しい情報を医師に伝えてください。

（２）当日、予防接種を受けることができない人

①明らかに発熱（体温が３７．５℃以上）のある人

②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
急性の病気で薬を飲む必要のある人は、その後の病気の変化がわからなくなる可能性があるため、その日の予防接種は見合わせるのが原則です。
③新型コロナワクチンに含まれる成分により、アナフィラキシーを起こしたことがある人
『アナフィラキシー』とは、接種後３０分以内に起こるひどいアレルギー反応です。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。
④その他、医師が不適当な状態と判断した人
①～③に当てはまらなくても医師が接種不適当と判断した場合は接種できません。

（３）予防接種を受ける際、担当医師とよく相談しなくてはならない人
①心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他の慢性の病気で治療を受けている人
②前に新型コロナワクチン予防接種を受けた時、２日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーを思わす異常がみられた人
③今までにけいれんを起こしたことがある人
④喘息や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことがある人

（４）予防接種を受けた後の一般的注意事項
①予防接種を受けた後３０分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
②ワクチンの副反応の多くは２４時間以内に出現します。特にこの間は体調に注意しましょう。
③入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。接種当日は普通の生活をしてもかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

その他
副反応が起こった場合
予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。
予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れる、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医師の診察を受けてください。そのほか、わからない時は下記へお問い合わせください。

予防接種健康被害救済制度
一般的にワクチン接種では、比較的よく起こる副反応以外にも、副反応による健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が生じることがあります。副反応による健康被害は、極めてまれであるもののなくすことができないことから、救済制度が設けられています。詳しくは下記へお問い合わせください。

早川町　福祉保健課　４５－２３６３

引用・参考：新型コロナウイルスに関するＱ&Ａ（厚生労働省）
Ｂ類疾病予防接種ガイドライン 2024 年度版（発行：公益財団法人予防接種リサーチセンター
執筆、監修：予防接種ガイドライン等検討委員会）